9
2011
September Vol.614

BRIDGE

東北電力社誌
「ブリッジ」



特集
それぞれの3.11
［釜石営業所］

CONTENTS

vol.614 2011 9

■表紙の写真から



今回,「それぞれの3.11」で震災を振り返っていただいた(左から)松倉航星さん,岩渕俊明さん,古川郁憲さん,前川将太さん。プレハブで作られた仮設の営業所で,釜石市,大槌町の復興に向けて頑張っています(P.01)

01 特 集
それぞれの3.11 —釜石営業所—

15 ふるさと復興応援団! vol.1
三陸に仕事を!プロジェクト「浜のミサンガ『環(たまき)』」

Monthly News
16 ■緊急設置電源
東新潟火力発電所港3号系列が営業運転を開始
17 ■東通原子力発電所 大容量電源装置の運用を開始
18 ■海輪社長が能代・秋田両火力発電所を訪問

19 電気事業法第27条に基づく電力の使用制限が終了
21 平成23年度「ecoオフィス」活動取り組み事例紹介
23 福島に元気を!福島から元気を! 響け 故郷復興への鼓動
東北電力鼓響会

26 退職者の方々
27 掲示板

DATA FILE
電力需給実績/株価・出来高



それぞれの3.11

釜石営業所

さあ始めよう ゼロからのスタートだ!

3月11日に発生した東日本大震災。それぞれの事業所では何があったのか,そしてどんな思いで復旧に携わり,そこから何を得たのか。

BRIDGEでは,座談会や社員のインタビューを通して,「それぞれの3.11」を振り返ります。

第1回目は釜石営業所。営業所自体が被災し,WING端末も何も使えない状態から,電気を復旧させた軌跡を追いました。

座談会 ゼロからつないだ復興の灯

津波によって営業所が被災し，ゼロからの電気の復旧作業が始まった釜石営業所。いかにして釜石営業所は復旧を成し遂げたのか。
そこには釜石営業所員の，応援隊の，そして地域の方々の電気の復旧に対する熱い思いがありました。
ここでは座談会を通して，当時，釜石営業所に何があったのか振り返っていきます。



今回座談会に出席していただいた（左から）古川幸守お客さまセンター担当副長，髙橋隆弘総務課副長，風間敬一所長，増川昭彦配電課技術サービスグループ副長，佐藤晃司配電課運用グループ副長。

「カタカタカタ」小さな揺れから全ては始まった

司会
今日は、「それぞれの3・11」ということで、3月11日から今日まで釜石営業所では何があったのか、そして、どんな思いで復旧に取り組んできたのか、また、この震災から得たものは何だったのか、語り合っていただきたいと思います。

髙橋副長
地震発生時の釜石営業所ですが、最初の揺れは「カタカタカタ」と小刻みに縦に揺れ、まもなく縦とも横ともいえない激しい揺れが襲ってきました。

この日、風間所長は家事都合で不在でした。沼倉副所長が激しい揺れを受け「これは来るな…」と直感したそうで、千葉総務課長に所内放送を指示しました。千葉課長が所内放送で「全所員、営業所からの退避準備！揺れが収まったらすぐ鈴子町に逃げてください!!」と呼び掛けました。その呼び掛けが終わるや否や、所内はすぐに停電しました。私たちも指示に従い、非常持出袋に持ち出し品を詰めました。

揺れは、時間の経過とともにますます強くなっていったのを覚えています。建物がミシミシと音を立て「倒壊する…」と感じるほどでした。

揺れが収まり、私と担当の前川さんはマニュアルに基づき、鈴子町の第一次避難所に向かうべく、非常持出袋と個人のかばん・コートを持ち、



震災当初の釜石営業所

1階に下りました。私は階段を駆け下りながら、「津波が来ます！すぐに鈴子に逃げて!!」と大声で叫びました。

構内の駐車場に出ると、配電課の方は各自が分担して車両に持ち出し品を積み込み、続々と出発していきました。

司会

避難所には無事に着けたのですか。

髙橋副長

はい。鈴子町にある第一次避難所は、営業所から西に1キロメートル先にあり、浸水想定区域の外にありました。到着後10分ほど過ぎてから、千葉課長が営業所から走ってここまで来ました。息を切らしながら、「営業所からは全員退避し、施錠完了。大津波が迫っており、この場所も危険なので野田町の三陸寮に移動する」との指示を受けました。

待機していた全員にこの指示を伝え、一斉に移動しました。車中で携帯電話のワンセグから、釜石湾の岸壁を乗り越える津波を見ました。「あと10分退避が遅れていたら…」と思うと背筋がぞっとしました。


震災当初の釜石営業所の駐車場

司会

その日の晩はどうしたのですか。

髙橋副長

三陸寮や同じ構内にある社宅の集会所には全員が宿泊することができず、私は構内に置いていた車の中で夜を明かしました。

見上げると、あふれんばかりの星や星雲が輝いています。停電のためにきれいに見えたのですが、電力社員として何ともいえない悲しさを覚えました。

司会

営業所の対策本部はどのような様子だったのですか。

佐藤副長

三陸寮に皆で避難してきましたので、社宅の集会所が本部となりました。高圧電源車を持って来て、11日午後11時ごろに集会所に送電することができました。

電気がついているのはここだけなので、周囲に配慮して、明かりが漏れないように窓にダンボールを張ったりしていました。また、電気がついたことで、保安電話も使えるようになりました。

髙橋副長

ただ、保安電話の交換機が被災した営業所にあり、バッテリーでしばらくは持ちこたえていたものの、1～2日後にはバッテリーが切れ、保安電話が使えなくなってしまいました。

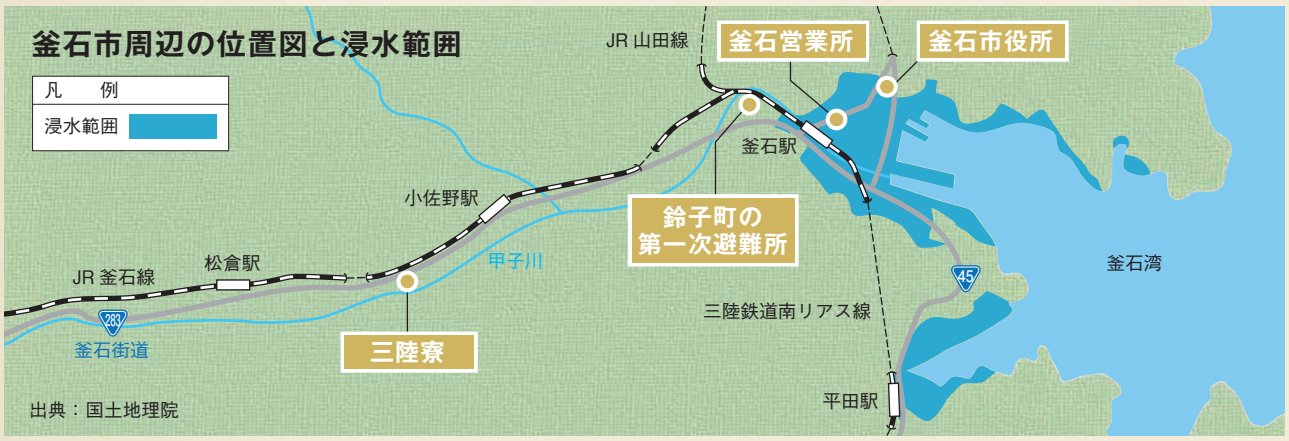
安否確認もままならない状態だったのですが、エルクやエルタスなどの企業グループの方が、単身赴任をしている私たちの家族の安否を確認していただいたことがありました。


プレハブが立つ前の三陸寮の様子

風間所長

私は休暇を取って東京にいる子どもに会うために、仙台駅に車で向かっているときでした。

車に乗っていても分かるほどの大



きな揺れで、「これはただ事ではない」と最寄りの仙台北営業所へ向かいました。仙台北営業所では、テレビと薄暗い照明の下で情報収集をしながら、復旧戦略を立てていました。

司会

釜石営業所と連絡はついたのですか。

風間所長

営業所とはなかなか連絡が取れず、心配で仕方ありませんでした。所員の安否は大丈夫なのか、釜石、大槌の町は大丈夫なのか。仙台北営業所にお願いし、詰めて情報収集を行いました。


風間所長

髙橋副長

営業所では、沼倉副所長やそれぞれの課長が指示を出して、適宜所長に連絡を取りながら対応していました。

佐藤副長

衛星電話も使えたのですが、つながりづらい状況でしたね。

風間所長

確か、携帯電話をずっとかけ続けていたら一回だけつながりました。それで、使用可能な保安電話の番号を教えてもらい、その番号を頼りにいろいろと連絡を取りました。所員の安否確認、釜石や大槌がどんな状況なのか、釜石に行くにはどの道が通れるのか、何とか確認ができました。

その後、高速道路が仮復旧し、緊急車両のみ通行が可能になったという情報が入り、即時にインターチェンジに向いました。「電力社員として何としても釜石に行かなければならない」と必死でしたね。30分くらいしてようやく許可が下り、何とか釜石に到着しました。

「病院」と「避難所」方針を決めたらぶれずに最善を尽くす

司会

その後、復旧体制が本格的に整っていったと思いますが、どのように進められていったのですか。

風間所長

現在は、企業グループからのご協力などもあり、プレハブの事務所が3棟あるのですが、最初はアパートの集会所しかありませんでした。そこから全てが始まっていきました。もちろん、全員が入れるほどのスペースはありませんので、対策本部の会議の場が中心でした。


集会所に設置された対策本部

佐藤副長

まず、電源側の送電がいつになるのか分からないまま、われわれとしては配電線側の送電に備えるため、12日夜明けとともに巡視を実施しました。

その後、北上技術センターの方が対策本部に直接来て、「大橋変電所から復旧していきます」との話があり、「病院や避難所を優先して送電する」という営業所の方針の下、順次送電を進めていきました。

古川副長

まず、避難所がどこにあるのか。それを把握しないことには送電もできないので、それはお客さまセンターで確認をしました。

また、避難している人が、どこに何人くらいいるのか。市役所も被災したため、市役所の職員は県の振興局に詰めていましたので、振興局に確認に行きました。振興局には毎日毎日通って、避難所の電気の復旧のため情報収集し、また市に対して情報提供をしていきました。

次に、避難所だけでなく下水処理場の早期送電の依頼がありました。「下水が溢れ出すと大変なことになる」という理由からでした。どっちが優先なのかを問うと、「どっちも早期にお願いします」という切なる要望でした。


古川副長

司会

なかなか調整が難しい部分もあったのですね。

佐藤副長

何を優先して復旧するべきなのか、判断が難しい箇所もあったのですが、最初の「病院」と「避難所」という方針は一貫していました。その方針を一番最初に決めておいたのが良かったと思います。



佐藤副長

風間所長

「病院」と「避難所」を最優先するという方向性ですが、後は調整して復旧していきました。

3市2町が広域運営しているクリーンセンターの復旧というのもありました。「復旧しないことには、どんどんごみがたまる一方で、何とかごみを処理していかないとまずい」という自治体からの強い要請がありました。

クリーンセンター自体は津波の被害は免れたのですが、そこに行くまでがひどい道のりでした。コンテナを運ぶ船が乗り上げて電柱をなぎ倒していたり、がれきが残っていたりしているため、電柱を遠回りして建てていかなければなりませんので、その判断も難しかったですね。

佐藤副長

結局、当社の設備が残っているところはいいのですが、設備に被害を受けているところ、大槌のように変電所自体に被害を受けたところもありますから、難しい部分が大変多かったのです。

配電の中でも、送電と応援隊を仕切るチーム、設備復旧チーム、個別送電チームの大きく三つに分けて対応していきましたが、その体制を早く組めたのが良かったと思います。

また、岩手支店の配電では津波対策のワーキンググループが作られており、今年3月末に取りまとめが予定されていました。さまざまな対策が話し合われてきており、その経験を今回の復旧に生かすことができたと考えています。



がれきの中に真新しい電柱が立ち並ぶ

「どこから手を付ければ…」折れそうな心を奮い立たせ

増川副長

私は、復旧ルートをいかに建設するかというチームを取りまとめていました。設備が津波の被害を受けた地域に電柱を建てていくチームです。

まず最初に手掛けたのは、学校の体育館のような大きな避難所でした。何もないがれきの山の中に、どう電柱を建てていくか。大きく分けて釜石市内担当班と大槌町担当班の二つに分けたのですが、皆顔色を悪くして帰ってくるんですよ。道路も何もないわけですから。その都度、みんなに「どうした、頑張っていこう！」とハッパを掛けていましたね。

風間所長

震災直後だと、がれきをよけて、まず道路を作る作業が第一優先だと思いました。道路がなければ復旧も何もできません。道路には釘が落ちていて、作業車のパンクも多かったですね。

増川副長

道路ができ上がってきて電柱を建てることができるようになってきたのですが、設備の設計をすることが非常に大変でした。配電図面・設計書作成システム（IMAGE）が使えず、システム内に登録されている配電設備の図面も持ち出すことができなくて、唯一あったのが住宅地図だったもので、それをコピーして「ここに電柱を建てよう」といった形で設計図面を作成しました。



増川副長

古川副長

営業所も三陸寮に設置され、お客さまの窓口もない中、個別送電が始まろうとしていました。

佐藤副長

安全が確認できないところは、火事になるといけないので計器の二次

側で電気を遮断しておくのですが、切ったお客さまが不在の場合は、チラシを置いていきました。そのチラシには、「立ち会いの下、電気をつけさせていただきます」と書いておきました。

風雪を避け、ブルーシートのテントでお客さまをお迎え

古川副長

チラシには三陸寮までの地図も書いておきました。個別送電が始まるということは、お客さまが来所されますから、お客さまをお迎えするテントを組みました。

風雪の中での受付ということもありましたので、テントにブルーシートを巻いて風を防いだりしたのですが、それでも風が吹き込むので、下にダンボールを取り付けたりもしました。夜中でもお客さまはいらっしゃいますので、反射式のストーブを置いて寒さをしのぎ対応しました。

そのテントの窓口には、電柱番号も計器番号も、お客さまの情報を検索するための営業オンラインも何もありません。住宅地図を片手に、お客さまに場所を教えていただき、地図をコピーして配電に渡して個別送電を行っていました。


寒風が吹き込む中,受付が行われた


三陸寮の前に設置されたテントによる窓口

髙橋副長

お客さまが来始めたらすごかったですよね。

佐藤副長

あとは「電気がついたよ」っていう、お客さまの口コミでも広がりますからね。

古川副長

3月16日ごろから個別送電が始まり、多い日は400件弱ほどの件数がありました。

佐藤副長

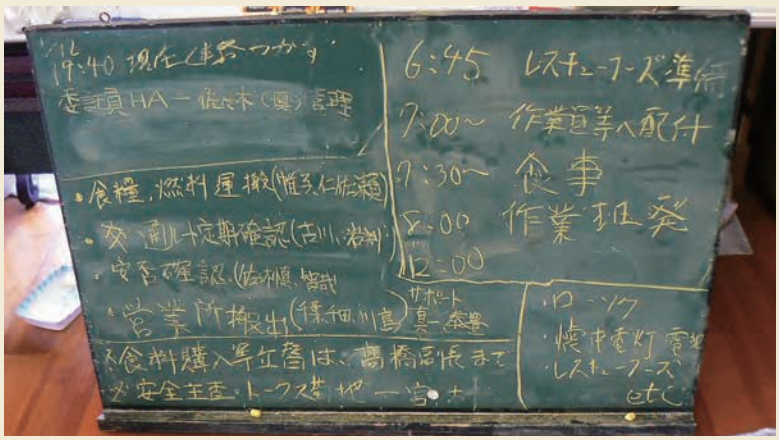
個別送電では厳しい声もいただきました。

浸水はしたのですが家屋は残っており、片づけをして「そろそろ電気をつけてほしい」と言われるんです。浸水したお客さまには、「漏電の心配もあるので、内線を改修しないと送電できません」とご案内しているのですが、なかなかご理解をいただけませんでした。そうすると、送電できない状態が続いてしまい、悪循環に陥ってしまうのです。

風間所長

釜石営業所は、本当に何もない状態からのスタートでした。

つまり、今のIT技術が何もない状態で果たして復旧ができるのか。BCM（事業継続管理）やBCP（事業継続計画）といわれていますが、釜石営業所の所員は皆それに秀でていたと思っています。



震災当初に書かれた黒板

寝食いっしょ 営業所全体が一つの家族

司会

どんどん復旧が始まり、燃料などの確保が大変だったのではないですか。

風間所長
復旧作業を進める中で、何といっても燃料と食料の調達が必要でした。総務班やお客さまセンター班が中心になって、その確保に動きました。

髙橋副長
まず、釜石の町が壊滅状態でしたので、燃料にせよ食料にせよ買えないわけです。地域の皆さまもそれを必要としているわけですから、当社が先んじて買い占めることなどできません。
とにかく市内ではなく、遠くに行こうということで、初めのころは総務班とお客さまセンター班、それと一緒に避難してきたエルクをはじめとする企業グループの皆さんと合同で、買い出しに出掛けました。新仙人道路というバイパスが通行止めのため、雪が積もる仙人峠や笛吹峠を越えての買い出しでした。遠野に行って燃料を買ったり、遠野がだめなら北上、紫波、盛岡に行きました。震災直後はタンクローリーによる燃料補給体制も確立されていなかったので、復旧に必要な燃料を何とかかき集めたといった形でした。


髙橋副長

司会
燃料が尽きることはなかったのですか。

髙橋副長
燃料が尽きることはなかったですが綱渡りでしたね。
だんだん燃料も買えなくなってきて、どうしようもない状態になってきました。「今日はあといくら残っている?」「今日一日持たないぞ!」という毎日で、人海戦術でワッと走り回りました。

古川副長
一番初めは、住宅地図も十分な数がない状態でしたから、内陸に買い出しに行く人に、釜石の住宅地図を買ってきてもらいました。

髙橋副長
震災当初に一番バックアップしていただいたのが、遠野営業所や花北営業所という最寄りの内陸の営業所でした。支店も情報収集などで体制が整うまでの間、率先して支援していただき、非常に助かりました。
釜石営業所の所員には、内陸のガソリンスタンドの情報などないわけですから、「こっちのガソリンスタンドが提携している」「あそこなら優先的に入れてもらえる」という情報をすぐに提供していただきました。

風間所長
炊き出しは、社宅に住むご家族や三陸寮の寮務員さん、組合の職員の方など、皆さんが手伝ってくださいました。寮や集会所で皆が寝泊りしていて、社宅もすぐ隣にあるため、社宅の子どもたちの食事も一緒になっていました。

司会
釜石営業所全体が一つの家族のようですね。

髙橋副長
支店に電話がつながるようになって、連絡するとすぐにプレハブを手配してくれました。本当に迅速に営業所の要望に応えてくれました。
雨風をしのぐことができるのはよかったのですが、月日がたつと次第にプレハブの中が暑くなってきました。エアコンは6月中旬に入れていただきましたが、それまでは40℃くらいあるんじゃないか?というほど暑かったですね。あまりに暑いから、「冷やせ!冷やせ!」と言って屋根に水を掛けたりしてましたね(笑)。

「電力さん、使ってください」地域の方々に本当に助けていただいた

司会
復旧も進んでくると、お客さまとの接点も多くなってきたと思いますが、印象に残っているエピソードはありますか。

風間所長
「電気の復旧情報を知りたい」ということで、大槌の避難所の代表者会議に出席しました。皆さん一様に不安な表情でいましたが、復旧情報をお伝えすると、不自由な避難所生活の中でも、皆さんいくらか安心されている様子でした。
そういったこともあり、その後も適宜情報提供を行うようにしました。

髙橋副長
地域の方々には本当に助けていただいたという思いが強くあります。
配電の応援隊が100人近くの規模で来ますという情報が入りました。釜石の町が被害を受けている中で、もちろん宿は取れない状態です。総務としては、応援隊がどこに本部を構えるのか、その場所を探さなくて

はなりません。
　釜石は三陸の町ですので、平地は少ない土地柄です。そこで、お客さまが「電力さん使ってください」と広場を貸してくださったのです。大変助かりました。おかげさまで、１００人規模の応援隊が交代交代に入ってくることができました。
　また、大口のお客さまが支援物資を持ってきてくださったり、とても地域の方々に助けられたという思いがあります。

増川副長
　配電もそうですね。道路事情が悪い中で電柱を運んだりしなければならないのですが、地域の区長さんが交通整理をして、優先的に通してくださったりしました。本当にありがたかったです。


がれきが除かれ確保された道路。道路事情が悪い中で,電柱を運ばなければならなかった

司会
地域の方々の協力があったから、復旧することができたということですね。
応援隊の方々はどうでしたか。

佐藤副長
　応援隊の存在は、非常に心強かったです。青森支店でバスを仕立ててやって来てくれました。そしてプレハブを立て、コピー機などいろいろな機材を持って来て、そこを本部にして復旧していただきました。
　また、私たちが資料を出す準備をしなければならないのですが、応援隊の方々が率先して手伝ってくださいました。私たち地元の営業所員が復旧に集中することができたことは、非常に大きかったと思います。感謝ですね。

古川副長
　電気の復旧に伴って、お客さまからの申し込みも多くなりました。個別送電の受付、仮設住宅の新設、仮設住宅への入居、壊れた家の撤去などによる契約の締結や廃止手続き、検針や電気料金の請求もあります。
　お客さまセンターにも多くの方が応援に来られ、これらの事務処理を手伝ってくださいました。「また来ました」と何回も来ていただいた方もいらっしゃいます。本当にありがたかったです。
　また、仕事は事務処理ばかりではなく、現地での作業もしていただきました。応援に来られた方は地理的に分からないところも多く、そうした中でお客さま対応していただきました。お客さまは被災され、いろいろと思うところもある中で、応援に来ていただいた方々は親身になってお客さまと向き合っていました。大変だっただろうと思いますし、とてもありがたかったです。

復興へ向けて 地域とともに…

司会
これから釜石や大槌の町は復興していくことと思いますが、営業所としてどう携わっていきたいですか。

風間所長
　今は、行政が主導して復興に向けた取り組みが行われています。私も委員に入っているのですが、第一線事業所として地域と一緒になって、地域との結び付きを強くし、復興に携わっていきたいと考えています。

髙橋副長
　現在はできるところからの支援ということで、些細なことかもしれませんが、仮設住宅に「緑のカーテン」を設置したり、地元の幼稚園児と一緒に栽培した野菜や果物を配ったりと、「被災した方々に笑顔を」という視点で活動しています。


ちびっこ農園での収穫の様子。収穫した野菜は,仮設住宅で暮らす被災者の方々に配られた

佐藤副長
　配電として、現在は復旧した住宅や施設に送電している状況ですが、今後は新しくできていく町にすぐに対応できる準備を進めていきたいと考えています。

この震災から得たもの

司会　最後になりますが、東日本大震災から得た教訓を教えてください。

髙橋副長　「地域に残る昔からの言い伝えは絶対尊重する」ですね。釜石はじめ三陸沿岸は「津波てんでんこ」という言い伝えがあります。「地震が来たら津波が来る。てんでんに（それぞれに）安全な場所へ逃げろ」というものです。

　釜石営業所はその言い伝えに沿って、「まずは逃げる」を最優先に日ごろから分秒を惜しんで鈴子町へ避難する訓練を行ってきました。即時の社内放送、各課の自主的な避難準備、そして鈴子町への避難…。どれを取っても、言い伝えに沿った訓練の成果だと思います。

　余談ですが、震災2日前の大きな地震も、結果して良い経験になりましたね。その時私は、かばんもコートも持たずに逃げてしまいました。これを反省し、本震では全て持って逃げられました。

古川副長　私は沿岸勤務が通算16年間になりますが、内陸出身のため津波の脅威がこれほど凄いとは思っていませんでした。津波というものは、せいぜい海岸沿いだけが被害を受けるものと思っていましたが、今回認識を改めさせられました。今後は「地震＝津波」を想定し、より早く、より遠く、より高い場所に避難したいと思います。

　また、被災された方々は大変だったと思いますが、今後に向けて頑張っている姿を見ていると、凄いと思いました。私も見習って、困難に遭った場合、立ち向かい跳ね返す力を身に付けたいと思います。

佐藤副長　今回の震災でたくさんの応援をいただきました。環境が悪い中での作業が続き、疲れもたまっていたと思いますが、お客さまへ電気を届けるという使命感を強く感じました。本当に感謝しています。

　また、営業所員にも家族や親戚が被災した方が多くいましたが、一致団結して震災対応に当たったことも心が熱くなりました。今回経験したことを後々にまで伝えることが、われわれの使命だと感じています。

増川副長　今回の震災対応は、若手の人材育成としては貴重な経験であったと思います。被害に遭われたお客さま対応や、配電設備の保安巡視でも、大きな地震が来ても安全な設備をどうつくるか、守るかといった設備を見る目が養われたのではないでしょうか。

風間所長　この震災から得た一番の教訓は、先ほども申しあげましたが、ＩＴ技術を使わなくとも復旧ができる人材を育成することと、上位機関や企業グループとの連携・訓練が最も重要だと思います。

　もちろん、それにだけ特化するということではなく、ブラックボックスではなく業務内容を理解した上でＩＴでの効率化技術を使い、万一実際に使えなくても、手作業でも業務の遂行ができるということが大切だと実感しています。

　実際に釜石は何も使えなかった。そして、そうした中でも電気をお客さまに早く届けるために、復旧しなければならないという強い使命感で、被災した社員も含め所員全員が必死に動いたわけです。


仮設住宅への送電。今後は新しくできる町への送電準備が進められている





総 務 課

前川 将太さん

地域の皆さまが笑顔になれるように

地面から叩かれている感覚

地震発生時は,3階の執務室で事務処理を行っていました。今までに体感したことのない揺れで,建物が壊れるのではないかと感じました。揺れや振動というよりも,地面の下から何かに叩かれているような感覚でした。

地震後は,災害復旧作業用の車を確保しなければならないため,すぐに車で避難しましたが,信号が止まった市内は大渋滞していました。釜石市鈴子町にある第1次避難所へ到着後,6mの津波が来るという情報を聞いたことから,第2次避難所である三陸寮へと向かいました。車で橋を走行中,川を遡上してくる津波が見えました。河川敷を全て埋め尽くし,たくさんのがれきを含んだ黒い波が押し寄せてきており,津波の巨大さに恐怖を覚えました。津波が遡上した河川敷は,毎年春,地元の小学生と一緒に清掃とヤマメの稚魚を放流している場所でしたので,何ともいえないむなしさが込み上げてきました。

震災前の3月9日に,震度5弱の地震がありました。その時も,津波注意報が発令され避難しました。不備は特にありませんでしたが,非常持出用具や防寒対策などを再確認することができ,3月11日は避難も含めてスムーズに行うことができました。

復興に向けてできること
地域の皆さまを笑顔に

本格的な設備復旧が始まり,復旧隊の食事準備や物資調達など,後方支援を主に行ってきました。燃料不足が深刻で,携行缶を持って北上市など内陸に買い出しに出ることもありました。買い出しに出た際,お客さまから「電気の復旧が早くて助かった」と感謝の言葉をたくさんいただき,励みになったのを覚えています。

釜石,大槌の復興はまだ始まったばかりです。復興に向けて,自分自身ができることは小さなことかもしれません。それでも,地域協調活動などを通じて,仮設住宅で暮らす被災者の方や地域の皆さまが笑顔になれるよう,復興のお手伝いをしていきたいと思います。



今年もちびっ子農園で野菜の栽培が行われた



次の地域協調活動に向けて念入りな打ち合わせが欠かせない



安定供給を通じて復興を支えたい

配電課
技術サービスグループ
松倉 航星さん

消えていく電気…

あの時,私は3月9日に発生した震度5弱の地震を踏まえて,非常持出用具の整理をしていました。立っているのもままならないほどの激しい揺れに動揺していたのですが,指令室の配電線情報遠隔表示装置(SV)がどんどん停電を示す表示に変わっていき,ついには営業所自体が停電してしまうなど,「これはまずい…」とさらに動揺してしまったことを覚えています。

年末年始の大雪の時も復旧に携わりましたが,今回の震災ではまったく先の見通しがつかず,「これからいったいどうなるのだろう…」と不安な気持ちがずっと付きまとっていました。配電として,個別送電などでお客さまと接する機会も多く,電気がついた瞬間,どのお客さまの表情もパッと明るくなったことがとても印象に残っています。先の見えない不安の中でしたが,お客さまから「ありがとう」という言葉を掛けられ,そのたびに東北電力の仕事の責任の大きさを肌で感じました。

備える力,絶やさぬ光

今回の東日本大震災から,準備することの大切さを学びました。いつ発生するか分からない大地震だからこそ,普段から最悪の状況に備えておくことが大切だと思います。そうすることで,当社の使命である「電力の安定供給」,また停電後の早期復旧につながるのだと思います。

配電としての復旧作業は,今はだいぶ落ちついてきました。これまでは,設備復旧が中心となり,保守の部分でおろそかになっていたところもまだまだあります。多くの方々の懸命な努力によって復旧することができた「復興の礎となる電気」を,事故などで絶やすことがないようにしっかりと保守し,安定供給を通じて復興のお手伝いをしていきたいと思っています。



いつあるか分からない次の災害に備える



お客さまセンター

岩渕 俊明さん

お客さま一人一人にきめ細やかに

あの時,雪が積もっていた

「このまま建物が壊れるんじゃないか」と思い,急いで外に避難しました。津波については所内に防災組織があり,私は車両搬出班として車両の確保に当たりました。車両がなければ,その後の復旧作業ができません。懸命に搬出を行いましたが,何台かは流されてしまいました。

お客さまセンターとして仕事のピークを迎えたのは,個別送電が始まってからでした。事務所もなく,お客さまを迎え入れるために,寮の入り口にテントを張りました。今回インタビューを受けるに当たって,当時の写真を見返したのですが,当時は無我夢中だったのでしょう,いまさらながら営業所に雪が積もっていたことを初めて知りました。非常に寒かったことだけが,鮮烈に印象に残っています。

お客さまセンターとして受付ができる量,配電で作業ができる量にも限界があり,それを超えるお客さまが,次々とテントに訪れました。

「早ぐ電気つけでほしいー!」

「分がったー!何とがすっからー!」

お客さまは電気を早く送ってほしいという切実な思いで,営業所にいらっしゃっているのが痛いほど伝わってきます。被災されたお客さまと接する中で,自分たちも津波で営業所を追われてきた身ということもあり,地域の一体感をとても強く感じました。

地域との一体感を強く感じれば感じるほどに,悔しい思いもありました。「電気いづつくんだー」という言葉に「分からない…」としか答えられなかったことです。「こちらとしても何とかしてあげたい」「それでも限界がある」もどかしい気持ちでいっぱいでした。

お客さまの状況は一人一人違う 個々の事情に合わせて

釜石は海の町。魚介類の加工場や缶詰工場などが多いところです。そこに新しく電気という部分で,空調設備を今年度導入しようとお客さまと一緒に動きを取ってきました。今回の津波で,その工場がすっかり流出してしまいました。それは私の仕事をもまっさらに流してしまったことと同じことです。

被災されたお客さまの状況は,全壊から,半壊,少し壊れた程度など,本当に多岐にわたっています。それを一緒くたにすることはできません。お客さま個々の事情に合わせて,きめ細やかな対応を心掛けていきたいと思います。

現在,市が中心となって,事業者向けの仮設店舗を作るプロジェクトが動き出しています。私もそのプロジェクトの一員として,復興に携わっていきたいと思っています。



復興に向けたプロジェクトが進められていく



仲間の力,思いやりの心に感謝

配電課
運用グループ
古川 郁憲さん

うそだろ…

私は釜石市小川町で,電柱の支障移転のためにお客さまと立ち会いをしていました。立ち会いも無事に終わり,設備の確認を行っていた時に激しい揺れに襲われました。とても長くて大きな揺れ,地響きに驚き,恐怖でただただ呆然としていました。さっきまで立ち会いをしていたお客さまも,家の外に出てきました。その日は結局,大津波警報が出ており情報伝達の手段もなく,その夜は集会所で夜を明かしました。次の日からは,内陸側を中心に設備の巡視を午前中いっぱい12時くらいまで行いました。三陸寮に戻ってきたところ,釜石市や大槌町の被害状況もだんだん分かってきました。

私は釜石市が地元で,自宅は鵜住居地区にありました。鵜住居地区から避難してきた人から,「鵜住居自体がなくなってしまった。うそじゃないから行ってみろ」と聞かされ,「うそだろ…」と涙が止まりませんでした。自宅は鵜住居地区でも少し内陸に入っているところにあり,津波が自宅まで来るとはまったく思っていませんでした。それまで「電気を何としても早く復旧しないといけない」と必死にやってきましたが,そういった話を聞いて,張り詰めていたものが一気に切れてしまった感覚になりました。

がれきが散乱する中,家族や両親の安否確認に必死で歩いたことが思い出されます。学校が避難所となっていることもあり,子どもたちとは避難所で再会することができました。会社にも顔を出すことができず,避難所で子どもたちと過ごしました。「これからどうしたらいいのか…」と考えると,なかなか眠れない日々が続きました。家族とも再会でき,会社の社宅に入れていただき,少し落ち着いてきたこともあり,仕事に復帰しました。避難所にいるとき,親が倒れたこともあって「避難所の環境は厳しいものがある。何としても避難所に早く電気を送らないといけない」と,まずは各避難所への一日も早い復旧に向けて,強い意志で仕事に当たりました。

地元釜石のために

私は設備の設計に携わってきましたが,「地元釜石,大槌の復旧のために」と設計を進めるうちに,気持ちもだんだんと前向きになってきました。現在も設計に携わっていますが,復興に伴って新たに住宅を新築されるお客さまも増えてきました。私も被災した一人として,被災されたお客さまと同じ気持ちです。被災されたお客さま一人一人の声に耳を傾けて,親身になって接していきたいと考えています。

感謝の気持ち,一生忘れることはできない

私にも,前の職場の方をはじめ多くの方々から電話やメールをいただきました。また,わざわざ休みの日を使って会いに来てくださったこともありました。そのおかげもあって,前向きに考えることができるようになったと思います。また,私が落ち込んでいるときに,釜石営業所の皆さんが親身になって支えてくださいました。一生忘れることができないし,感謝の気持ちでいっぱいです。

今後,復興に向けての道のりは長く険しいものと思いますが,どんなにつらくとも前向きな強い気持ちを持ち,地元釜石の復興に向け,前へ進んでいきたいと思います。

[頑張っています！ 釜石営業所]

プレハブの事務所で業務を進める釜石営業所。全所員が力を合わせ,電気の安定供給に取り組んでいます。















1 現在三つのプレハブが建てられ,業務を行っている
2 テントが設置されていた三陸寮の入口
3 まけるな!釜石 一心合力!大槌
4 安全への誓い
5 現在の集会所
総務課とお客さま提案グループで使用している
6 お客さまセンターが使用しているプレハブ事務所内
7 立派に成長した緑のカーテン

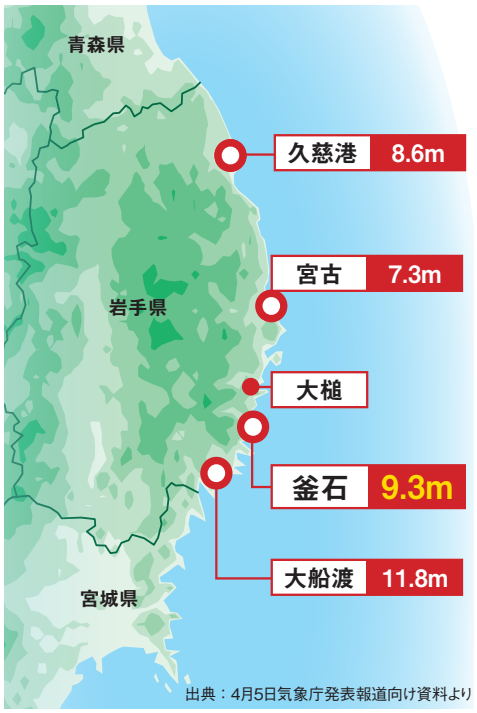
[復興に向け歩みを進める釜石市,大槌町の様子]

9.3mの津波を観測した釜石市。がれきの撤去も進められ,一歩一歩復興に向け歩んでいます。


現在の釜石港周辺


現在の大槌町

■〈参考〉岩手県各地の津波の高さ(推定)



寸断されていた道路が復旧し,
新しい電柱が立ち並ぶ(釜石市両石町)


3月


8月

案内標識に倒れかかっていた電柱も復旧し,周辺も整備された(釜石市片岸町)



3月



8月



ふるさと復興応援団!

Vol.1

今月号より,東日本大震災で大きな被害を受けたふるさとの復興を応援するコーナーがスタートします。
第1回は,三陸に仕事を!プロジェクトの「浜のミサンガ『環(たまき)』」です。

三陸に仕事を!プロジェクト 浜のミサンガ 環(たまき)



仕事がある。笑顔になれる。

復興に向けて歩みを進める三陸地区。漁業施設の復旧,がれき撤去や工事などの仕事はありますが,こういった力仕事は男性が中心となってしまいます。一方,水揚げの手伝いやカキやホタテの殻むきなどを担ってきた女性たちが,被災地で仕事を見つけるのは難しいのが現実です。

こうした被災地の女性たちの就労を支援しようと始められたのが「三陸に仕事を!プロジェクト」の「浜のミサンガ『環(たまき)』」づくりです。

「環」とは,日本古来のブレスレットの呼称。一つ一つ漁網で編んだオリジナルのミサンガは,岩手県釜石市をはじめ,宮城県南三陸町などの被災者の女性たちがグループになって手仕事で作られています。ミサンガの販売代金1,100円(1セット・税込)のうち,諸経費などを引いた金額が彼女たちの賃金になります。

一人一人ができる復興支援,してみませんか。

購入方法

インターネット(毎月11日から販売が開始されます)

http://www.sanriku-shigoto-project.com

店舗販売(9月12日現在)

岩手県
- □三陸とれたて市場(大船渡市)
- □もっきり・絆(山田町)
- □盛岡クラブチェンジWAVE(盛岡市)
- □美容室・羽音〈バズ〉(釜石市)
- □MOSSビル〈gs(2F),Disknote(4F)〉(盛岡市)
- □カワトク(盛岡市)
- □フェザン(盛岡市)

宮城県
- □マーブルロードおおまち「地産地消市場」(仙台市)
- □菅原酒店(仙台市)
- □SHIPS仙台店(仙台市)



三陸に仕事を　検索

緊急設置電源 東新潟火力発電所港3号系列が営業運転を開始

当社初の移動用ガスタービン発電機を採用

8月26日、東新潟火力発電所港3号系列（出力2・69万kW×2）が営業運転を開始しました。

港3号系列は、東日本大震災による早期供給力確保に向けた取り組みの一環として、東新潟火力発電所構内に建設を進めてきたもので、短期間で設置できる移動用ガスタービン発電機を2台導入しています。

この移動用ガスタービン発電機は、※燃料に軽油を使用しますが、ディーゼル発電機とは異なり、軽油の燃焼で得られた高温の燃焼ガスによりタービンと発電機を回します。

工事は6月に着工し、急ピッチで行われ、緊急電源として初めて運用を開始しました。

本設備は、国内の道路輸送が困難であるため、専用港を有し、燃料供給、系統連系、設置スペースなどの面からも対応可能な東新潟火力に設置することとなり、米国とハンガリーからそれぞれ空路・海路で東新潟火力まで輸送されました。東日本大震災によって供給力が不足している当社にとって、夏場だけでなく冬場の貴重な供給力として期待されています。

当社では、東日本大震災によって被災した火力発電所について、現在、早期復旧に向け、鋭意取り組んでいます。

※…ディーゼル発電機は、ピストンにより空気を圧縮し、圧縮により高温となった空気に燃料を噴射することにより爆発を起してピストンを押し下げ、その往復運動を回転エネルギーに替えて発電機を回すもの。



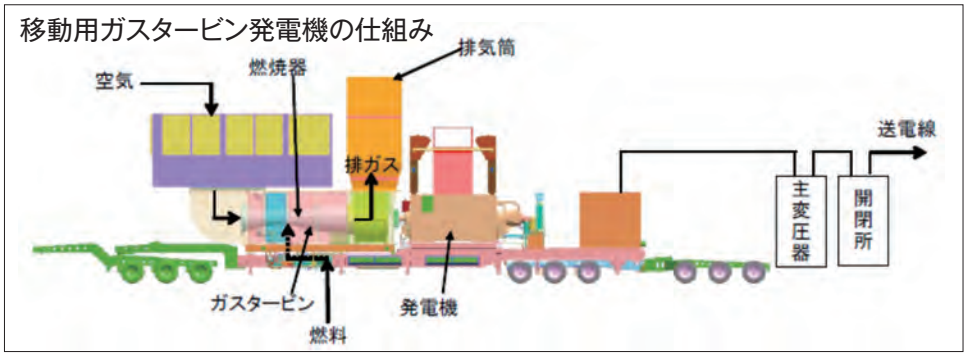


営業運転を開始した東新潟火力港3号系列（上），営業運転開始宣言書を手にする門脇火力部副部長（下左）と青木東新潟火力発電所長（下右）

■東新潟火力発電所港3号系列の概要

燃　　料	軽油
発 電 方 式	シンプルサイクルガスタービン発電方式
出　　力	2.69万 kW×2
工 事 開 始	平成23年6月1日
総合試運転開始	平成23年8月22日
営業運転開始	平成23年8月26日
メ ー カ ー	GE（ゼネラル・エレクトリック）
サ イ ズ（1台）	縦：約30m，横：約10m，高さ：約9.5m

移動用ガスタービン発電機の仕組み



東通原子力発電所 大容量電源装置の運用を開始

全交流電源喪失時に原子炉の冷温停止に必要な循環冷却が可能に

このたび、東通原子力発電所では福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、非常用ディーゼル発電機の代替が可能な大容量電源装置を配備し、運用を開始しました。

福島第一原子力発電所では、津波により①全交流電源、②海水による冷却機能、③使用済燃料プールを冷却する全ての機能の三つが喪失し、事故に至ったものとされています。

このため、東通原子力発電所ではこれらの機能が喪失した場合でも、高圧電源車や消防車などを使用することで、炉心損傷および使用済燃料の損傷を防止し、放射性物質の放出を抑制しつつ、原子炉施設の冷却機能の回復を図るための緊急安全対策を策定し、実施してきました（本誌5月号19ページ参照）。

この緊急安全対策について国の立ち入り検査を受け、5月6日には「適切に実施されているものと判断する」との評価を受けています。

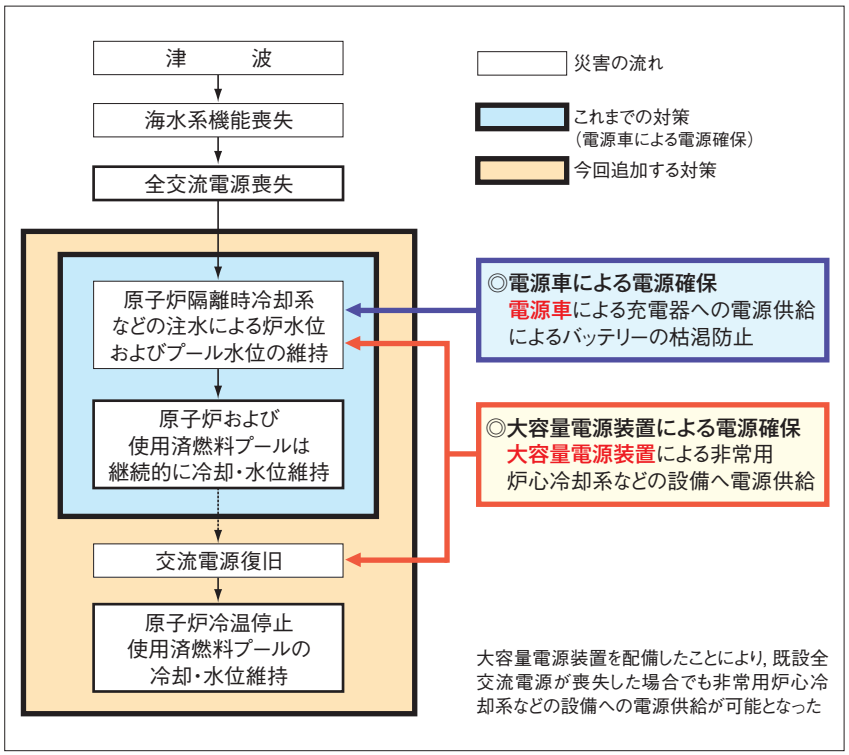
今回運用を開始した大容量電源装置は、さらなる安全性の向上のために配備されたものです（本誌5月号20ページ参照）。

この大容量電源装置を配備したことにより、既設の非常用ディーゼル発電機や外部電源などの全交流電源が喪失された場合においても、原子炉の冷温停止や使用済燃料プールの冷却維持に必要な電源を供給することが可能となりました。

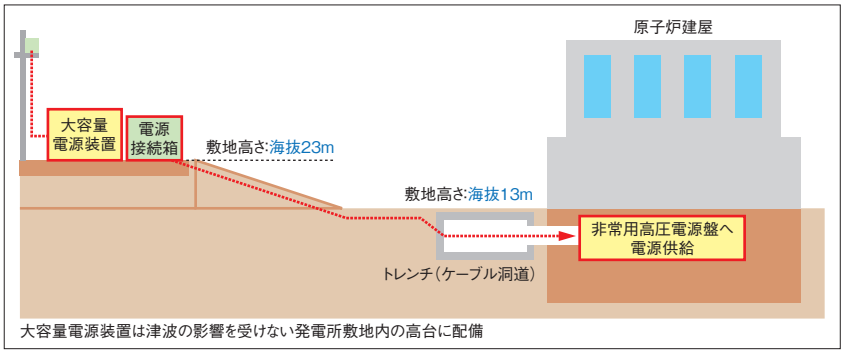
今後は恒久的な対策として、既設の非常用ディーゼル発電機と同等機能を有する非常用発電機を津波の影響がない発電所敷地高台に設置します。



運用を開始した大容量電源装置



大容量電源装置を配備したことにより，既設全交流電源が喪失した場合でも非常用炉心冷却系などの設備への電源供給が可能となった



大容量電源装置は津波の影響を受けない発電所敷地内の高台に配備

■大容量電源装置の仕様

発電方式	ディーゼル発電
燃　　料	軽油
定格出力	8,000kVA（2,000kVA×4台）
定格電圧	400V（昇圧変圧器盤二次側6.6kV）

〈参考〉既設の非常用ディーゼル発電機の定格出力

非常用ディーゼル発電機	7,850kVA×2台
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機	4,500kVA

海輪社長が能代・秋田両火力発電所を訪問

安定供給を支えたことに対して感謝の言葉を述べる

8月23日、24日の両日、海輪社長は能代・秋田両火力発電所を訪れました。

それぞれの発電所において、訪問に合わせ海輪社長は設備の状況や緊急設置電源の建設状況を視察しました。

能代・秋田両火力発電所であいさつした海輪社長は、「震災後、速やかにプラントを立ち上げ、安定供給の主体を担っていただいた。これは、供給力が低下している中、日本海側の火力発電所は設備が健全だっただけでなく、皆さんが日常の改善活動や災害防止への取り組みなど、日夜努力していただいた結果である。本当にありがたく思っている。今冬も厳しい需給状況が予想されている中で、引き続き安定供給を支えていただきたい」と所員を激励しました。また、海輪社長は「当社にとって厳しい状況は続いているが、『朝が来ない夜はない』。一緒に知恵を出し合って、頑張っていこう」と呼び掛けました。

能代火力発電所で行われた中堅層社員との対話では、震災以降の当社の状況をはじめ、今後の経営方針や需給対策のPR方法、緊急設置電源と経費削減の課題など、多岐にわたる話題について活発な意見交換が行われました。その中で、「地域からの信頼回復に当たっての心構えは何か」との質問に対し、「時間をかけて地道な努力を続ければ、地域の方々からの信頼回復はできると思う。どのように行うかは立場・環境によって異なるが、それぞれの立場で誠心誠意対応してほしい」と話しました。

また、トラブル対応については「トラブルなどの非常時には、いろいろな気付きがあり、経験を積む機会である。記憶が薄くならないうちに反省会を行い、いろいろな気付きを改善に結び付けることが大切だ」と話しました。







緊急設置電源である秋田火力発電所５号機建設現場を視察する海輪社長（上），秋田火力発電所での訓話の様子。震災後の早期の立ち上げに対して，感謝の言葉が贈られた（中），和やかな雰囲気の中で，中堅層社員との対話が行われた（下）

平成23年度電気保安功労者表彰式が開催される

8月24日、関東東北産業保安監督部東北支部と電気安全東北委員会（委員長・（財）東北電気保安協会濱田理事長）の共催により、仙台市内のホテルで、平成23年度電気保安功労者表彰式が開催されました。

この表彰制度は、長年にわたり電気保安の確保に顕著な功績があり、保守運営体制、保安教育および保安技術の向上に努めた事業場、個人および団体を表彰するものです。

今回は、原子力安全・保安院長、電気安全東北委員会委員長表彰合わせて29の団体や個人が表彰されました。

式典では、表彰状・記念品の授与が行われた後、日本電気協会東北支部会長を務める高橋当社会長が祝辞を述べました。この中で高橋会長は、「エネルギー政策は社会と経済を支える国家の基本であり、電気が基幹エネルギーとして果たす役割はますます拡大し、電気保安業務の重要性も高まっていく。受賞された皆さまのご功績に深く敬意を表するとともに、今後も先進的、模範的な技術者として、電気保安技術の研鑽向上、後進の指導・育成にご協力をお願いしたい」と受賞者をたたえました。

この後、津波防災の第一人者である首藤伸夫東北大学名誉教授より、「２０１１年東北地方太平洋沖地震と津波対策」と題した記念講演が行われました。



祝辞を述べる高橋会長

電気事業法第27条に基づく電力の使用制限が終了

お客さまからの節電へのご協力と当社の供給力確保への取り組みなどにより計画停電を回避

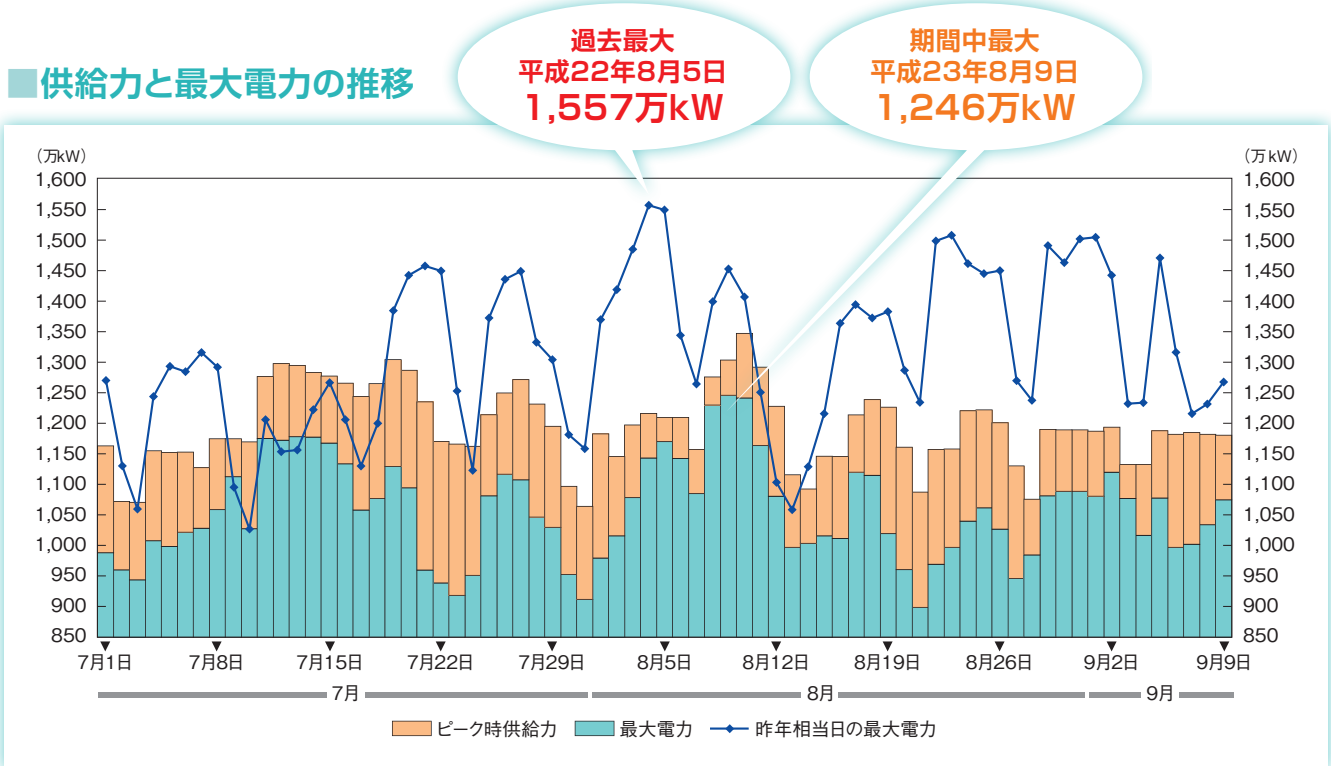
当社は,東日本大震災により原町火力発電所をはじめとした供給設備に大きな被害を受け,これまで緊急電源の設置や自家発電設備の余剰電力の購入などを通じて,供給力確保に全力で取り組んできました。また,7月1日から契約電力500kW以上のお客さまを対象として,電気事業法第27条に基づく電力の使用制限が発動されました。

そのような中,7月末には新潟県と福島県会津地方を中心に豪雨となり,只見川・阿賀野川水系の水力発電所を中心に被害が発生し,約100万kWの供給力が減少する事態に陥りました。

一方で,当社ではこれまでお客さまへの個別訪問やテレビCM,インターネット,各地で行われたイベントなどを通じて,お客さまの節電をサポートする取り組みを進めてきました。使用制限の対象となった大口のお客さまをはじめ,小口やご家庭のお客さまからも多大なる節電へのご理解,ご協力をいただきました。また,東京電力から電力融通を受けたことなどもあり,今夏の計画停電を回避してきました。

9月9日には,電気事業法第27条に基づく電力の使用制限は解除されました。しかし,今冬も厳しい需給状況が続く見通しであり,当社では引き続き,発電設備の復旧や緊急電源の設置など,供給力確保に全力で取り組んでいきます。

■供給力と最大電力の推移



企業グループのオフィスにおける7月の節電実施結果

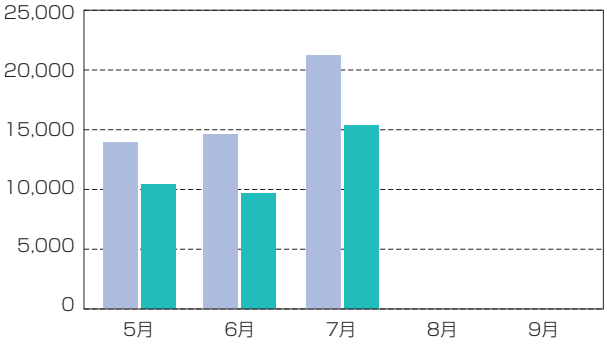
[7月の節電実施結果]

7月における企業グループ全体の節電の実施結果は,最大電力29.9%減,使用電力量38.8%減となりました。

	最大電力(kW)			使用電力量(万kWh)		
	平成22年度	平成23年度	削減電力／率	平成22年度	平成23年度	削減電力／率
当　社	17,354	12,136	5,218／30.0%	704.6	428.1	276.5／39.2%
本店ビル（再 掲）	2,513	1,534	979／39.0%	87.2	58.2	29.0／33.3%
企業グループ	4,383	3,108	1,275／29.1%	164.6	104.1	60.5／36.8%
合　計	21,737	15,244	6,493／29.9%	869.2	532.2	337.0／38.8%

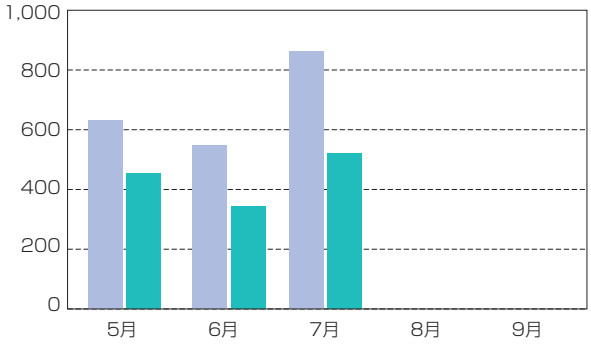
■実績の推移

【最大電力(kW)】



	5月	6月	7月	8月	9月
平成22年	13,922	14,610	21,737	—	—
平成23年	10,385	9,648	15,244	—	—
削減率	25.4%	34.0%	29.9%	—	—

【使用電力量(万kWh)】



	5月	6月	7月	8月	9月
平成22年	630.7	546.6	869.2	—	—
平成23年	453.1	344.0	532.2	—	—
削減率	28.1%	37.1%	38.8%	—	—

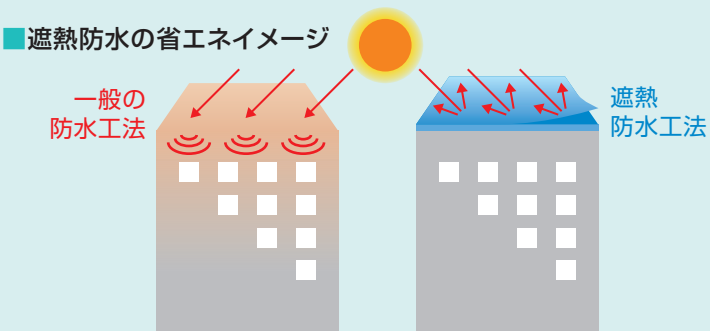
省エネオフィス最前線 Vol.3　「屋根面の遮熱対策」

夏場の日射による屋根面の温度上昇は,室内の冷房負荷を増加させる要因の一つです。特に,鉄板屋根の場合は,屋根面温度が80℃近くまで達する場合があり,冷房負荷への影響が大きくなります。

通常は,断熱材により断熱することで室内への熱の流入を低減していますが,最近はさらに屋根面で遮熱する方法も用いられるようになってきました。鉄板屋根の場合は,屋根面に遮熱塗料を塗布する方法,コンクリート屋根の場合は,遮熱防水を施工する方法があります。いずれも日射を反射させることにより,日射による屋根面の温度上昇を抑制し,冷房負荷を低減します。

当社建物においても,試験的に遮熱塗料の塗布および遮熱防水の施工を実施し,その効果を検証中です。有効性を確認できれば,事業所の屋根・屋上の改良工事のタイミングに合わせて,遮熱塗料および遮熱防水を採用し,省エネ・節電へ貢献させていきたいと考えています。

■遮熱防水の省エネイメージ





遮熱防水工法の施工事例(仙台営業所別館)

平成23年度

「ecoオフィス」活動取り組み事例紹介

6月の環境月間に合わせて実施した平成23年度「ecoオフィス」活動※の募集について,21件の応募がありました。

各事業所それぞれが,創意工夫をしながら「ecoオフィス」活動に取り組んでいますが,その中から特に他事業所の参考となるような活動を取り上げ紹介します。

※…ecoオフィス活動とは,オフィスの省エネ・省資源活動および事業所で実施する環境活動のことです。





三沢営業所　地域の方々と共に「花いっぱい運動」の実施



地域の方々と交流を図る良い機会となっています





←初冬まで彩りを添える営業所花壇のマリーゴールド

三沢市が毎年実施する市内花壇の植栽活動に,三沢営業所では「花いっぱい運動」として地域の方々の協力を得ながら10年以上前から参加しています。市役所交差点から営業所までの11花壇の植栽や歩道の除草をするほか,植栽活動に用いるベゴニアの花を140株ほど提供しています。

交差点一角の営業所花壇に植えるマリーゴールドは,初冬まで彩りを添えてくれます。

ご協力をいただいている「三沢市連合婦人会」「エレクトロサークル」の皆さまは,休日にスーパーなどでお会いすると「電力さん,草取りに行きますから声掛けてくださいね」とお声掛けしてくださり,とてもありがたく感じています。

地域の方々との一体感が感じられる地協活動を,今後も継続していきたいと思います。



総務課
滝本 久美子さん

遠野営業所　所員一丸となったオフィスの省エネ・省資源活動の実施



配置場所を社員通用口とすることで目に付きやすく,昼食を買いに行くときなども忘れにくくなります





←緑のカーテンの栽培など,所員一丸となって夏場の省エネ対策に取り組みました

ゴミ発生量削減の取り組みの一環として,社員通用口にエコバッグを配置し,レジ袋の使用を抑制したり,電気使用量を削減するために緑のカーテンの栽培や建物外灯の間引きを実施したりするなど,オフィスの省エネ・省資源活動に所員一丸となって精力的に取り組みました。

所内で栽培する緑のカーテンだけでなく,近所の大工町町内会が実施する「花いっぱい運動」のプランターへの水遣り作業も所員全員で行いました。

窓を覆い尽くす緑のカーテン,町内会のプランターで咲き誇る花の様子は,大きな充実感と達成感を感じさせてくれました。



お客さまセンターグループ
新沼 幸見さん

「ecoオフィスプラス」事業所の認定

最終審査には森下常務も参加し,総合的に他事業所の模範・参考となる活動を行った事業所を「ecoオフィスプラス」事業所として認定しました。

■平成23年度「ecoオフィスプラス」事業所

・水沢営業所　・秋田営業所　・新津営業所　・三沢営業所
・岩手支店　　・仙台営業所　・新発田営業所



平成23年度「ecoオフィスプラス」事業所の審査に当たる森下常務(右)

新津営業所　秋葉山クリーン作戦の実施



←活動実施前に参加者へあいさつをする八巻新津営業所長



↓花苗植え込み作業に参加してくださった地域の皆さまの笑顔



←毎年天候に恵まれ,いい汗をかきながら活動を実施しています

毎年6月に企業グループ・地元団体(ユアテック・ライオンズクラブなど)と連携の上,地元町内会などの地域の皆さまにもご参加いただき,秋葉山内にある秋葉公園・ボタン園の清掃・草取りと,公園花壇の花苗植え込みを参加者100人規模で実施しています。

また,活動に当たっては参加者へ緑のカーテン用の種を配布し,環境意識の高揚を図るなどの工夫も取り入れています。

参加者は日差しの強い中,清掃・草取り,花壇の花苗植え込みのグループに分かれ,地域の方々とのコミュニケーションを図りながら積極的に活動しました。新緑の時期,活動後の秋葉山は一段とその輝きを増したように感じられました。

今後も本活動を通じ,所員の環境意識の高揚を図りながら,地域との強い信頼関係を継続していきたいと考えています。



総務課
玉川 真二さん

古川技術センター　「見える化」による所員の環境意識向上への取り組み





給湯室,照明やエアコンのスイッチ付近など,さまざまな場所に意識啓発用の貼紙を掲示しています





グラフ化した環境関係→指標の掲示も,所員の環境意識の高揚に寄与しています

オフィスの省エネ・省資源活動として,所員の環境意識啓発用の貼紙掲示を行ったほか,数値による目標設定と実績値の分析を行い,所員へフィードバックを実施するなど,具体的な「見える化」に取り組みました。

環境活動の「見える化」は,所内の電気・水道・コピー用紙・自動車燃料使用量,一般廃棄物排出量,ペットボトル・缶リサイクル量などの毎月データを分析・グラフ化し,掲示やメールにより周知することで,所員の意識高揚を図っています。

オフィスの省エネ・省資源活動は,数値による具体的な目標設定と実施結果のフィードバックにより,所員一人一人が確実に実行することが大切であると強く感じています。

これからも「見える化」やさまざまな環境情報の発信により,所員の環境意識の高揚を図り,事業所全体で「ecoオフィス」活動に取り組んでいきたいと思います。



制御所
小林 早男さん

福島に元気を！
福島から元気を！

東北電力 鼓響会

響け 故郷復興への鼓動



平成8年、いわき営業所を中心に結成された「東北電力鼓響会」。東日本大震災からの復興に向けて動き出しています。今月号では、小形清和さんに鼓響会の故郷への思いなどをお聞きしましたので、会津での演奏会の模様と合わせてお伝えします。

―「東北電力鼓響会」とはどのような会ですか。

「東北電力鼓響会」は、福島支店全体の文化部として「オリジナル和太鼓」の演奏活動をしている会です。平成8年にいわき営業所の統廃合があり、その際、社員で何か記念になるイベントをしようという思いから始まりました。当時は、いわき営業所統廃合記念パーティーでの演奏が目標で、一度だけのつもりでしたが、地域のイベントへの参加をきっかけに活動の幅を広げ、現在まで続いています。

設立当初は17人だったメンバーも、今では女性7人、男性16人の合計23人に増えました。上は50歳代から最年少は18歳と、幅広い年代が活動しています。当時いわき中心だったメンバーは、仙台・福島・郡山・いわき・白河・山形・東京などへ異動になっていますが、年2回、全員が集まりコンサートも行っています。

―これまでどのような活動をしてきたのですか。

これまで、近隣幼稚園の夏祭りでの演奏披露から新社屋落成式典、また、福島で開催された「うつくしま未来博」のステージなど、北は八戸市から南は宇都宮市まで、さまざまな場所で100回以上演奏の機会をいただいてきました。また、養護学校での音楽鑑賞会や障害を持つ子どもたちへの音楽体験教室、さらに単独のコンサートも毎年行っています。







平成16年に発生した中越地震の際には、会津のゴスペルチームや長岡の太鼓団体などと合同で、地域の皆さまに「電気と元気と勇気をお届けしよう！」と長岡市でチャリティーコンサートを開催しました。

―中越地震の時と異なり、出演に迷いがあったそうですね。

現在、電力会社に対して不信感を持つお客さまが少なからずいらっしゃる中、ボランティアとはいえこのような活動をしていいものか、正直迷いました。メンバーの中でも、「被災地域のために何かアクションを起こしたい」といった意見や、「やはり自粛すべきでは？」といった意見もありました。

主催者側からは「こういう時期だからこそ、和太鼓の演奏を通じて、いわきの人たちを元気にしてほしい」という強い後押しがありました。そして、私たち自身も「いつまでも下を向いてばかりいられない。いわきは私たち鼓響会の原点。今まで活動してきた自分たちの思いは間違っていない」と言い聞かせ、お客さまの心情に配慮し「東北電力」という名前は伏せて、お受けすることにしました。

―こうして演奏会が開催されたのですね。当日はいかがでしたか。

演奏会の冒頭、いきなり長野先生から「今回演奏していただくのは、東北電力社員の皆さんです」とあっさり私たちの正体がばらされてしまいました。その後、長野先生は会場の皆さまに向けて、「私たちはこの

―震災後にいわき市の草野心平記念文学館で演奏会を開催したそうですね。

福島第一原子力発電所の事故などもあり、鼓響会として表立った活動を自粛していました。そのような中、絵本作家の長野ヒデ子先生からお話をいただきました。

長野先生は、以前福島営業所で行われた「おはなしひろば」に出演していただいたことをきっかけに親交がありました。今回は、いわき市の草野心平記念文学館でご自身の絵本のキャラクター「せとうちたいこさん」の原画展を開催することになっていました。そこで、「たいこさんと太鼓（たいこ）」をかけ、「震災で大変だったいわきの皆さんに元気を！」という趣旨で、私たちに演奏の依頼がきました。

長野先生のトークと和太鼓の演奏後には、ボランティアの方による子どもたちへの読み聞かせといったスタイルでした。







方たちにライフラインを助けていただいています。今回の震災でも、この方たちは必死に私たちの生活を守ってくれました。これからは私たちがこの方たちを応援しましょう」という言葉を投げ掛けられました。

―長野先生から素敵な言葉をいただいたのですね。

はい。ただ、「私たちは会場の皆さまからどう思われているのだろうか」という思いもあり、不安の中で演奏が始まりました。それでも、「いつもどおり、真っすぐに、ただひたむきに打ち込もう」と心を込めて打ち込みました。

演奏したのは、「絆」がテーマの「ほだしの群れ」という曲です。私たちが演奏する曲の中で、唯一メンバーによる作曲ではなく、鼓響会発足当初にいわきで太鼓を指導してくださった方が、私たちのためにと作ってくださった一番思い入れのある曲でもあります。

―会場の皆さまの反応はどうでしたか。

私たちの不安な思いとは裏腹に、会場の皆さまはとても喜んでくださり、あたたかい拍手と「元気をもらいました」との感想をいただきました。この言葉を聞いて、こちらが元気をいただいたようで本当にうれしかったです。

「地域のためになりたい」という真摯な思いは、どのような状況になっても伝わるものだと感じました。また、こういう大変な時期だからこそ『誠実さ』や『謙虚さ』を持って日々お客さまと接することが大切だと、あらためて思いました。迷いのあったいわきでのコンサートでしたが、私たちの新たなスタートラインになったと思います。

―最後に東北復興への思いをお聞かせください。

東日本大震災は、東北に甚大な被害を残しました。鼓響会のメンバーの中でも自身の家族を亡くしたり、実家が被害を受けたりと、今回の震災は『自分自身の身に起きた災害』でもあります。

被災地での復旧作業や応援対応、後方支援などでも、被災地の惨状を目の当たりにしてきましたが、震災から半年がたち、被災地の皆さまの精神的な疲弊は非常に大きなものになっています。

少しでも早く町を立て直し、地域の皆さまが立ち直れるよう、東北電力の社員として、また鼓響会のメンバーとして、東北で生活する地域の一員として、お手伝いをしていきたいと思っています。



長い間
ありがとう
ございました

退職者の方々

平成23年7月の退職者（敬称略）※所属は退職時のもの



グループ事業推進部付
東北緑化環境保全出向
佐藤　彦太郎



グループ事業推進部付
東北発電工業出向
小泉　俊夫



グループ事業推進部付
東北発電工業出向
保科　節男



グループ事業推進部付
通研電気工業出向
石幡　吉則



グループ事業推進部付
通研電気工業出向
梶山　義雄



グループ事業推進部付
東北ポール出向
長岡　和俊



火力原子力本部火力部付
東北水力地熱出向
三村　高久



土木建築部付
東北開発コンサルタント出向
三浦　喜昭



グループ事業推進部付
東北電気保安協会出向
佐藤　和雄



グループ事業推進部付
東北インテリジェント通信出向
神原　栄



グループ事業推進部付
東北エアサービス出向
中村　弘道



グループ事業推進部付
日本海エル・エヌ・ジー出向
遠藤　規美



大曲営業所付
戸澤　祐子



秋田営業所
配電技術サービス課
菅原　雄悦



秋田営業所
佐藤　博



盛岡技術センター
送電技術課
留場　誠康



青森技術センター
発変電業務課
小山　和男



火力原子力本部原子力部付
東北発電工業出向
渡辺　雅彦



新潟支店付
東北発電工業出向
計良　金次郎



会津若松支社
配電計画課
佐藤　博之



天童営業所
配電技術サービス課
高橋　正



山形技術センター付
大場　重徳



山形支店付
トークス出向
行方　孝夫



古川営業所
配電技術サービス課
阿部　勲

燃料費調整制度

8月30日,平成23年7月の貿易統計値が公表されたことに伴い,平成23年5月～7月の平均燃料価格が確定しましたので,「燃料費調整制度」による平成23年10月分の電気料金に適用される単価をお知らせします。

平均燃料価格

(単位:円／kℓ)

平成23年5月～平成23年7月平均燃料価格（平成23年10月分料金に反映）	平成23年4月～平成23年6月平均燃料価格（平成23年9月分料金に反映）	基準燃料価格
32,700	31,900	31,000

燃料費調整単価

(単位:銭／kWh)

	平成23年10月分料金への適用調整単価(A)	平成23年9月分料金への適用調整単価(B)	適用単価の差額(A−B)
電灯･低圧	29	15	14
高　圧	28	15	13
特別高圧	27	14	13

※消費税等相当額を含みます。

標準家庭への影響

(単位:円／月)

	平成23年10月分	平成23年9月分	9月分との差額
電気料金	6,661	6,621	40

※標準家庭の電気料金は,契約電流30A,使用電力量280kWhで計算。消費税等相当額を含みます。
※電気料金には太陽光発電促進付加金を含みます。

貿易統計実績

	平成23年5月～平成23年7月平均	平成23年4月～平成23年6月平均	平成20年1月～3月平均(料金改定時)
原油価格(円/kℓ)	58,852	59,177	62,735
(ドル/b)	115.6	115.0	93.0
LNG価格(円/t)	61,743	58,133	58,282
石炭価格(円/t)	11,202	10,977	8,873
為替レート(円/ドル)	81	82	107

東北電力社誌「ブリッジ」
BRIDGE 2011 September Vol.614

編集後記

東日本大震災から半年がたちました。もう半年,まだ半年…。一人一人,それぞれの思いでこの半年を過ごされてきたのではないでしょうか。私自身,一生忘れることができない半年になりました。今後のBRIDGE･NEWSスクエアでも,震災から立ち上がり,前を向いて進んでいく姿にスポットを当て,紹介していきたいと思います。

大震災を経て変わってしまったことがたくさんあります。しかし,変わらないものはそれ以上にあるはず…。そんな宝物を大事に,しっかり守り伝えていきたいと思います。

広報･地域交流部(広報･交流企画)大滝　保安.910-3024,w059001

東日本大震災から半年が過ぎ,ややもすれば,人々の記憶から震災が忘れられつつあるように感じられるようになってきました。そのような中で,釜石市や大槌町を取材で訪れましたが,「震災は終わっていない。現在も続いているのだ」という印象を強く受けました。

そして,「釜石営業所の3.11」に迫りましたが,座談会,個人インタビューで皆さんから出てくる言葉は「安定供給への熱意」と「感謝の気持ち」でした。

自分に何ができるのか。BRIDGEを通じて思いを伝えることで,震災が風化されないように努めていきたいと思います。

広報･地域交流部(広報･交流企画)斎藤　保安.910-3023,w060177

社内テレビ放送
「NEWSスクエア」
第1･第3月曜日～水曜日に放送。
放送時間:9時,10時,12時,12時40分,
13時10分,17時,17時30分



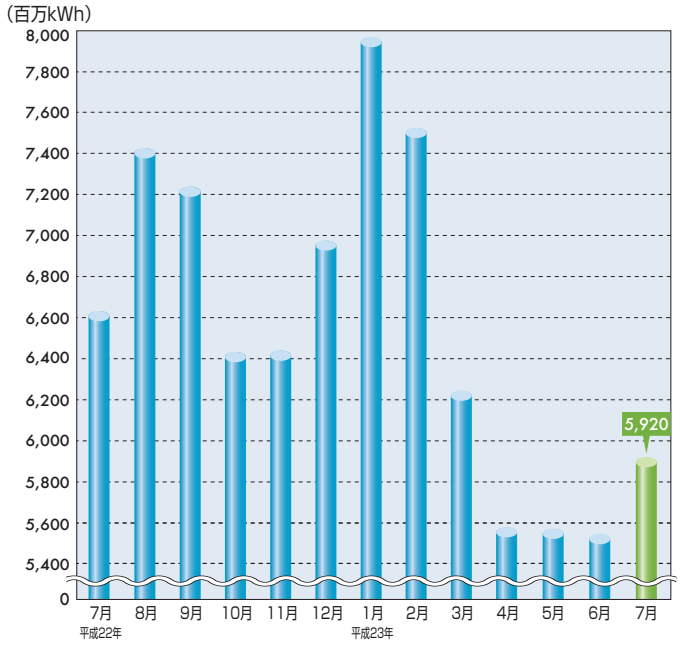
都合のよい日時を選んで,ぜひご覧ください。
お問い合わせは,下記の担当者までお気軽にどうぞ。
ご意見･ご感想･情報提供などもお待ちしています。

広報･地域交流部(広報･交流企画)
大滝 保安.910-3024,w059001

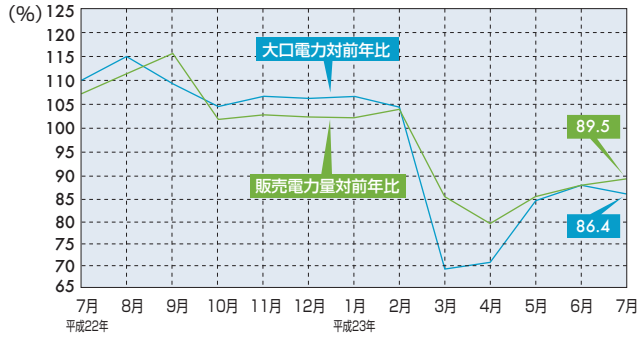
DATA FILE

▶電力需給実績（平成23年7月分）

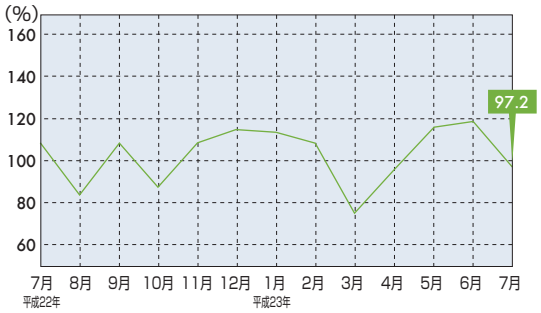
販売電力量



販売電力量対前年比・大口電力対前年比

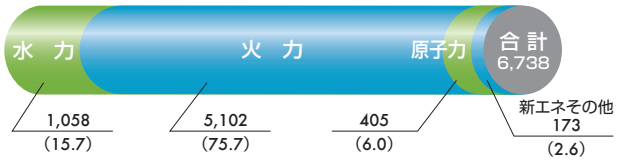


出水率



エネルギー種別別発受電電力量

（百万kWh）（　）内は構成比%



■電力需要について

7月分の販売電力量は,59億2,000kWh,対前年比89.5%の実績となり,東日本大震災の影響などにより,5カ月連続で前年実績を下回りました。

【特定規模需要以外の需要（自由化対象以外のお客さま）】

電灯は,東日本大震災の影響などにより,対前年比98.4%の実績となりました。

特定規模需要以外の需要の合計では,対前年比97.9%の実績となりました。

【特定規模需要（自由化対象のお客さま）】

業務用電力は,東日本大震災の影響などにより対前年比81.9%と,前年を下回る実績となりました。

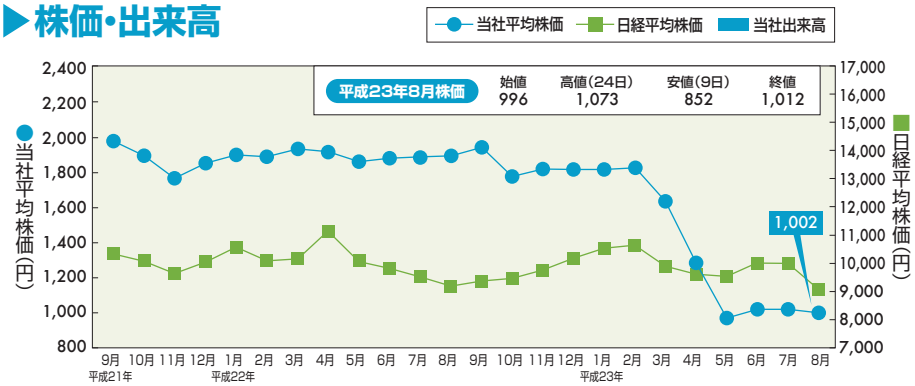
特定規模需要の合計では,対前年比85.9%の実績となりました。

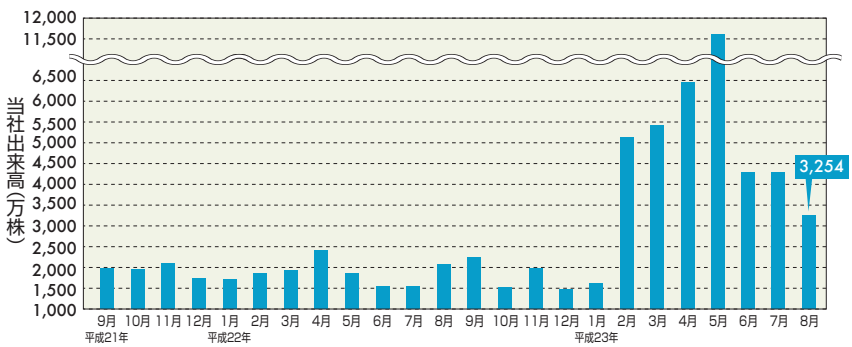
なお,産業用その他電力については,大口電力が大きなウエートを占めており,その概要は以下の参考のとおりです。

[参考]大口電力

大口電力は,東日本大震災の影響などにより,対前年比86.4%の実績となり,5カ月連続で前年実績を下回りました。

▶株価・出来高





株式まめ知識

「株式投資で得られる収益」

前回「財産三分法」では,預金,不動産との比較で株式の特徴を紹介しました。今回は,株式投資で得られる収益であるインカムゲインとキャピタルゲインを紹介します。

◎**インカムゲイン**…資産を保有し続けることにより安定的・継続的に受け取ることができる収益で,株式の場合は配当金がこれに当たります。預金の場合は利子,不動産では家賃収入がインカムゲインです。なお,インカムロスという概念はありません。

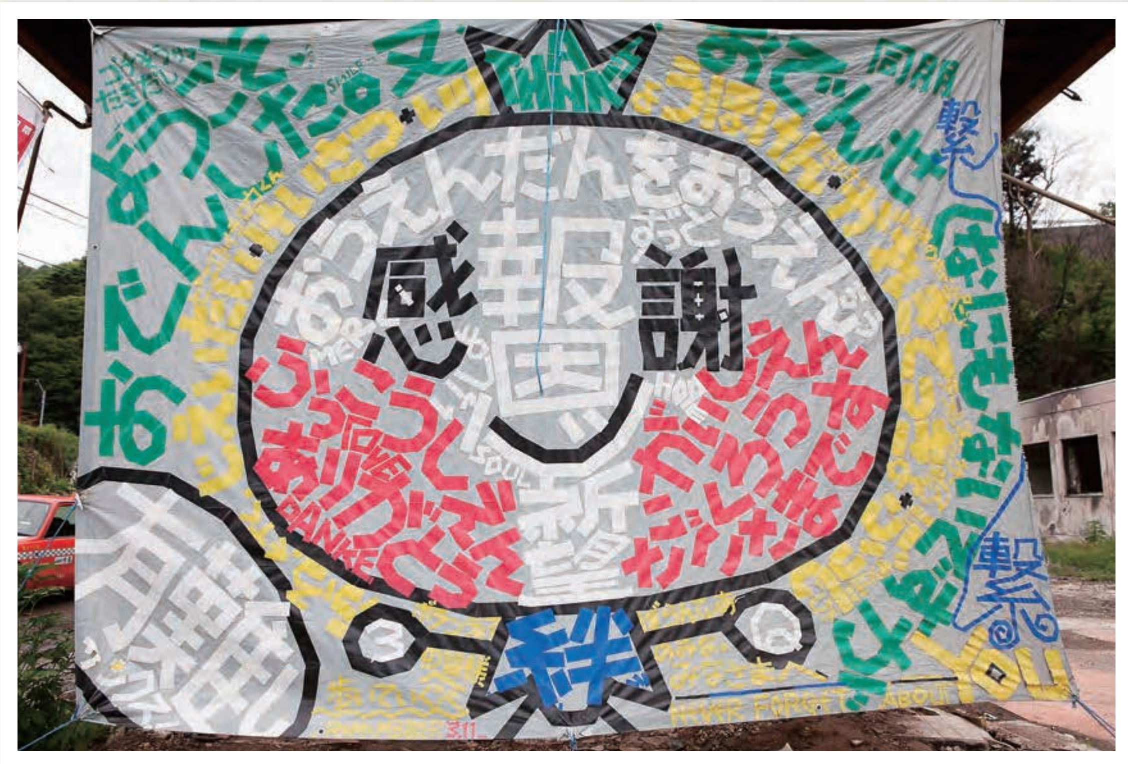
◎**キャピタルゲイン**…資産の値上がり（株式の場合は株価の上昇）によって得られる収益のことです。反対に,購入時より値下がりし,売却時に損失が生じた場合はキャピタルロス（ロスは損失の意）といいます。株式のキャピタルゲインは短期で得られることもありますが,過去の統計では長期間保有した方が株価は値上がりする確率が高いとされています。

国内の株式投資では,近年まで配当水準の低さからインカムゲインよりキャピタルゲインを重視した短期投資の傾向が強く見られました。しかし,最近では企業のコーポレートガバナンスの変化や,国内外の投資ファンドなど「もの言う株主」などの存在もあって,株主への還元策として配当が重視されるようになってきています。

当社の株式は,相対的に株価の変動幅が小さく（リスクが小さい）,安定した高い配当に努めてきたことから,長らく資産株（資産として長く保有するのに適した株式）として認識されています。

BRIDGE 2011.09 Vol.614

2011.8.25(thu)



ブルーシートに込められた復旧支援への感謝の思い。
大槌町のキャラクター「おおちゃん」が感謝の言葉で描かれています。

発行所／東北電力株式会社 広報・地域交流部　発行人／長谷川 登　印刷／今野印刷株式会社　平成二十三年九月十二日発行

Waterless Printing. Naturally.
PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は、環境にやさしい「水なし印刷」「植物性大豆インク」を使用しています。